

深雪山醍醐寺は小野南なり。山上を上醍醐といひ、麓を下醍醐と号す、宗旨は真言宗にして、修験道なり。〔此所を当山と号す。本山といふは聖護院の流義〕開基は聖宝尊師〔理源大師と謚す〕延喜四年の建立にして、醍醐朱雀村上の三代帝王の御願なり。法務は三宝院御門跡と称す。〔撰家の御連枝こ、に任せらる〕当山を醍醐と号する事は、聖宝尊師そんし仏法相應の靈地を得んが為、一七箇日祈念しければ、五色の雲当山の峰に聳ゆ、則山に昇りこ、かしこを巡るに、独の老翁来りて清泉を褒め是こそ醍醐味なりといひて、尊師にあたへ。夫此山は古仏練行の洞、諸天衛護の砌、前仏の遊処、名神の所居なり。われは是地主の神横尾明神なり。永此地を尊師に献べし、早く精舎を営て、広く仏法を弘め群類を利し給はゞ、擁護せんと云終て見えす。又梢の鳥は三宝を唱ふ。尊師弥感涙を流し、此由を奏上す。延喜帝殊に叡感ありて、除病延命のために当山の諸堂を造営し給ふ。本堂〔薬師如来を安置す、回祿の後秀吉公の御建立なり〕開山堂〔弘法大師理源大師の像を安置す〕五重塔〔仏言説相の曼陀羅を本尊とす〕清瀧権現〔沙迦羅龍王第三の姫を祭る、例祭は九月九日、山門の前にて猿楽あり〕藤戸石〔三宝院の庭中にあり、備前国藤戸浦にて佐々木三郎盛綱功名せし浮洲の岩なり。天正年中聚楽亭より此所に移す〕

長尾天満宮〔本堂の北なり。祭は九月九日にして、神輿二基あり、醍醐郷中の産沙神とす〕

花見山〔秀吉公花見遊宴の地なり〕〔天正軍記に委し〕